

大会名 Competition	第39回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-109	Year Month Day Time 2026 年 5 月 4 日 15 : 45
場所 Place	NODENアリーナ(能代総合体育館)

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB					
福岡第一	<table border="1"> <tr><td>10 1st 20</td></tr> <tr><td>20 2nd 21</td></tr> <tr><td>11 3rd 19</td></tr> <tr><td>16 4th 22</td></tr> <tr><td>0 T</td></tr> </table>	10 1st 20	20 2nd 21	11 3rd 19	16 4th 22	0 T	開志国際
10 1st 20							
20 2nd 21							
11 3rd 19							
16 4th 22							
0 T							
57 ●		82 ○					

主審:Crew chief  
田村 高光 秋田  
副審:Umpire  
山本 光太郎 宮城  
藤原 英幸 岩手  
テーブルオフィシャル:Table officials  
能代松陽高校 男子

No.	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
00	田中 柚稀		-	-	-	-	0	4	池田 楓真	cap	13	3	2	0	3
1	富 啓翔		0	0	0	0	1	5	高橋 歩路		12	2	2	2	2
8	宮城 昊河		-	-	-	-	0	6	大瀧 稜真		1	0	0	1	0
9	清水 空		6	1	1	1	1	7	北村 拓己		0	0	0	0	0
11	山端 元陽		-	-	-	-	0	8	早野 剛		-	-	-	-	0
12	乙藤 睦拓		2	0	1	0	2	9	ジョーンズ 堅太		9	2	1	1	1
15	吉川 煌雅		-	-	-	-	0	10	佐藤 海音		-	-	-	-	0
16	ソップ ハンソン		11	0	5	1	3	11	佐藤 大征		-	-	-	-	0
17	ソップ テビシ		4	0	1	2	1	12	恒岡 ケイマン		23	0	9	5	1
18	鈴木 遥輝		-	-	-	-	0	13	イェウ ゲットラックホドゥ		9	1	1	4	1
22	卓 承賢		11	3	1	0	1	14	AJAK ALUONG AJAK ALUONG		2	0	0	2	3
23	池田 虎太		2	0	1	0	0	15	村井 衛		-	-	-	-	0
31	鷹野 遼磨		-	-	-	-	0	16	塩谷 空牙		-	-	-	-	0
44	津田 來輝		9	1	3	0	2	17	岩朝 ローマ		-	-	-	-	0
45	ガイ マザン		6	0	3	0	1	18	堀内 遥		13	2	3	1	2
58	柴田 悠真		-	-	-	-	0								
75	ジョベ ヤア		0	0	0	-	2								
76	南里 明玲	cap	6	0	3	0	1								
コーチ	井手口 孝						0	コーチ	富樫 英樹						0
Aコーチ	原田 裕作						0	Aコーチ	津野 祐樹						0
合計			57	5	19	4	15	合計			82	10	18	16	13

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking[Team]

1	11	19.30%	ソップ ハンソン
2	11	19.30%	卓 承賢
3	9	15.79%	津田 來輝

1	23	28.05%	恒岡 ケイマン
2	13	15.85%	池田 楓真
3	13	15.85%	堀内 遥

Score ranking[Game]

1	23	恒岡 ケイマン	開志国際	2	13	池田 楓真	開志国際	3	13	堀内 遥	開志国際
---	----	---------	------	---	----	-------	------	---	----	------	------

今大会屈指の好カード。各プレイヤーの活躍はもちろん、全国を代表する井手口・富樫両名将の采配にも期待がかかる注目の一戦。

1Q、互いにタイトなディフェンスで簡単にシュートシチュエーションを作らせない。先手を取ったのは開志国際。フルコートマンツーマンからターンオーバーを誘い、そこからドライブで得点を重ねる。スコアの止まった福岡第一だが、ディフェンスリバウンドを確実に取り、じりじりと点差を詰めていく。福岡第一は一時10-11と迫ったものの、終盤開志国際#4池田を中心としたファストブレイクを止めることができず、一気に差が開く。10-20で1Q終了。

2Q、追いつきたい福岡第一は#22卓の3Pやスティールで4点差まで迫る。ここから両チームともにハイレベルなディフェンスで得点を許さない。中盤、開志国際#4池田の巧みなゲームメイクで得点を重ね再び突き放すも、福岡第一は#12乙藤、#44津田の超速ガードコンビが攻撃のギアを一段押し上げ離されまいと食い下がる。地元八竜出身の#9清水も3Pを決め会場を沸かせた。30-41で前半終了。

3Q、直後から開志国際は#4池田の3P、#12恒岡のレイアップで福岡第一を突き放す。福岡第一はガードを戻し早い展開に持ち込もうとするものの、開志国際#5高橋の連続3Pで点差はさらに広がる。41-60で3Q終了。

4Q、早い展開に持ち込んでシュートチャンスを増やしたい福岡第一、ゲームを落ち着かせて時間をうまく使い始める開志国際。残り7分を切ったところで福岡第一はタイムアウトを取り最後の追い上げを画策するが、肝心のシュートがなかなか決まらない。その後も終始安定した試合運びを見せた開志国際が57-82で全勝を守った。シュート成功率の差で大差がついてしまったが、最後までハイオリティな試合を見せてくれた両チームに拍手を送りたい。